

PRAEVIDENTIA DAILY (1月28日)

昨日までの世界：ドル安・ユーロ高

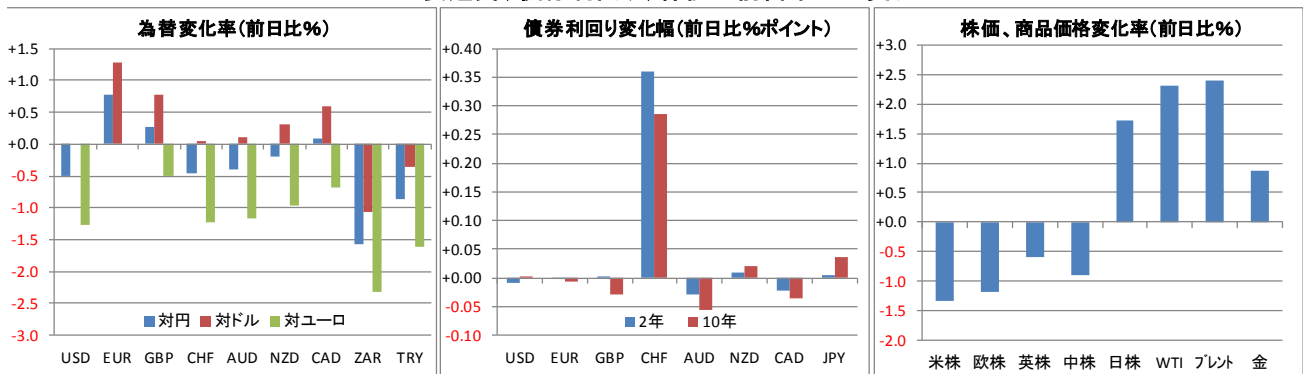
昨日は、ユーロが予想外の大幅上昇および米耐久財受注の予想外のマイナスを受けたドル安が特徴的だった。

ユーロは、ギリシャ選挙後のギリシャを中心とした株安やギリシャ国債利回りの大幅上昇など、ギリシャ懸念の高まりがユーロ安に繋がるはずだったが、欧州時間に Dantine スイス中銀副総裁が「外為市場で介入する用意がある」と述べた後ユーロ/フランが急上昇を始め、スイス中銀によるユーロ買いフラン売り介入観測が高まったことを受けて、ユーロ/ドルもつれ高となり、1.12 ドル台半ばから 1.13 ドル台半ばへ上昇した。その後再び 1.12 ドル台へ反落する局面も見られたが、NY 時間入り後に発表された米耐久財受注が総合で前月比-3.4%（市場予想+0.5%）、コア（非国防資本財除く航空機）が-0.6%（市場予想+0.5%）といずれも予想外に大幅マイナスとなったことから、米中長期債利回りとドルが下落、ユーロ/ドルは再び押し上げられ一時 1.14 ドル台乗せとなった。

ドル/円は、欧州時間にかけて 118 円割れへじり安となった後、米耐久財受注の予想外のマイナス化を受けて、米中長期債利回りの低下や米株安と共に一時 117.32 円へ下落した。もっとも、その後は米消費者信頼感が 102.9 と前月および市場予想（95.1）を大きく上回ったことや、原油価格の反発もあって米中長期債利回りが急反発し下落前の水準を回復したこともあって、ドル/円は 118 円丁度近辺へ持ち直した。

コモディティ通貨では、原油価格と連動してカナダドルが対米ドルで反発、NZ ドルや豪ドルも対米ドルで強含みで推移した。豪 NAB 企業サーベイでは、信頼感が 1 から 2 へ改善した一方、景況感は 5.3 から 4.1 へ悪化するなどまちまちの結果となり豪ドルへの影響は限定的だった。

主要通貨、債券利回り、株価の前営業日比変化



きょうの高慢な偏見：RBA 利下げの前奏曲？

きょうの注目通貨：AUD↓、NZD↓、USD/JPY↑

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
豪 4Q 総合 CPI 前年比	9 : 30	+2.3%	+1.8%	目標レンジは 2.0-3.0%
同加重中央値		+2.6%	+2.2%	
同刈込平均		+2.5%	+2.2%	
米 FOMC 金融政策決定・FF 金利	4 : 00	0.0-0.25%	0.0-0.25%	
RBNZ 金融政策決定	5 : 00	3.50%	3.50%	
NZ12 月貿易収支・NZ ドル	6 : 45	-2.134 億	-0.265 億	

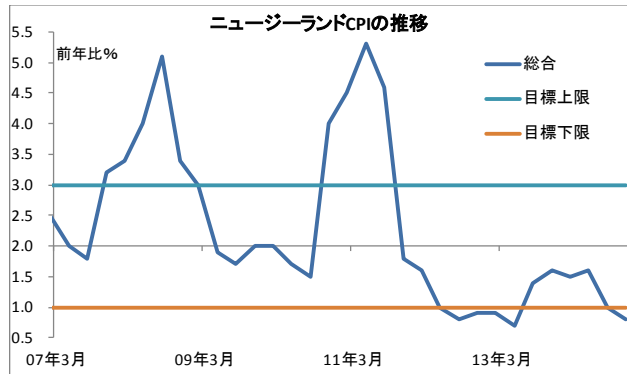
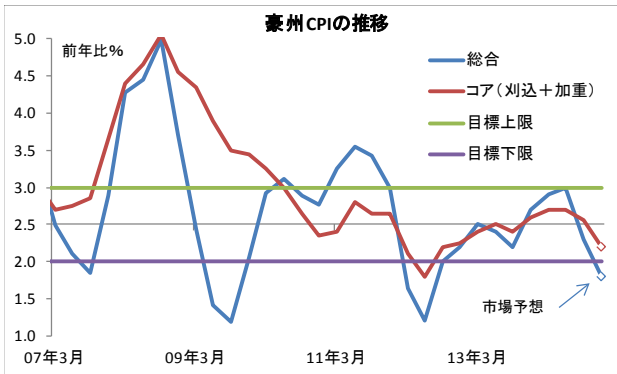
(出所) トムソン・ロイター等を基にプレビデンティア・ストラテジー作成

本日は、豪 CPI、FOMC そして翌朝早朝に RBNZ 金融政策決定と比較的重要なイベントが多く予定されている。豪 CPI については、原油安の影響もあって総合 CPI が RBA のインフレ目標レンジ（前年比+2.0~+3.0%）の下限である+2.0%を割り込む予想となっており、最近の他国のインフレ統計を見る限り市場予想を下回る傾向

があることから、来週 2 月 3 日の RBA 理事会における利下げ期待を強める可能性があり、豪ドル安リスクに注意が必要だ。

また翌朝早朝の RBNZ 金融政策決定でも、既に同国 4QCPI が発表され前年比+0.8%とインフレ目標下限(+1.0%)を下回っており、主要輸出品である乳製品価格の大幅下落（足許は反発しているがごく僅か）もあって今後の景気への悪影響が懸念される中で、利下げまでいかなくともハト派化する可能性が高く、NZ ドル安方向のリスクを注意しておいた方がいいだろう。この点では、前回 12 月 11 日の声明文にあった「OCR の更なる引上げ（some further increase）が今後遅い段階（at a later stage）で必要になるだろう」という表現が変更されるかが注目される。また為替についても、前回会合以降対米ドルで下落している中、前回声明中の「為替相場は今年の輸出価格下落を反映しておらず、正当化されず、持続不可能なほど高い。更なる大幅下落を予想している」という表現が弱められないかも注目だ。

他方で、FOMC については、6 月 FOMC での利上げ開始シナリオが確認されるかが注目点だ。声明文で足許の総合インフレや市場ベースのインフレ期待（ブレイクイーブンインフレ率等）の低下をあまり重視しない姿勢が維持されれば、足許世界的なディスインフレ傾向と中銀のハト派化シフトで揺らぎつつある 6 月 FOMC での利上げ開始シナリオを再確認し、対円や対ユーロでドルが反発に向かうだろう。他方、リスクとしては、他の多くの主要國中銀と同様に、インフレ低下や世界景気減速リスクの高まりを受けて FOMC のタカ派度が後退するようだと、ドル続落に繋がるだろう。当社は前者の確率が高いとみているが、足許は後者の可能性が以前より高まってきている。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641